

＜ RS ウイルスワクチンの妊婦に対する定期接種について ＞

2026年（令和8年）4月1日からRSウイルスワクチン（商品名：アプリスボ[®]筋注用）が妊娠28週から妊娠36週の妊婦に対して定期接種となることが決定しました。

そこで当院でも接種できる準備が整いましたのでお知らせいたします。

【接種対象となる妊婦さん】

妊娠28週0日から36週6日の妊婦で、当院以外で妊婦健診を受けている方でも接種可能となります。

【乳児RSウイルス感染症】

RSウイルスは乳児の下気道疾患（肺炎など）の主要な原因です。

RSウイルス感染症は2歳までにほぼ100%がかかる感染症で、2歳までの国内の年間発生数は12～18万人、入院数は2～5万人とインフルエンザよりもはるかに入院率が高く（図1）、死亡率はインフルエンザや新型コロナウイルス感染症より高いとされています。

RSウイルス感染症から乳児を守る方法には抗体薬と母子免疫ワクチンの2種類がありますが、抗体薬が保険適用となる対象は早産や基礎疾患のある乳児に限られています。

一方、RSウイルスワクチンは妊娠中の母体に接種することで移行抗体を獲得させて出生直後から乳児を保護する「母子免疫ワクチン」で、この度2026年（令和8年）4月1日から定期接種となったため、妊娠28週から36週の妊婦さんは無料で接種できます。

【ワクチンの有効性】

医療機関の受診が必要なRSウイルス感染症による下気道感染症の発症リスクを生後0～180日で50%以上、また重症感染症のリスクを生後0～90日で82%、0～180日で69%減少させることが示されています。

【安全性】

よくみられる副反応は、接種部位の痛み、頭痛、筋肉痛などですが、多くは軽症で数日以内に自然に軽快します。

当院でRSウイルスワクチンを接種するためには、一度受診していただいて接種日を予約していただく必要があります。予約がなければ接種できません。

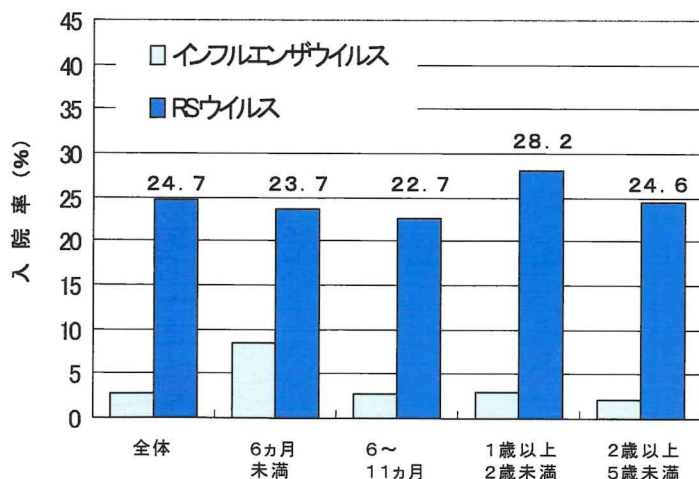


図1. RSウイルス感染症とインフルエンザ感染症における年齢層別の入院率

(Arashiro T et al. Influenza Other Respir Viruse. 2024;18(11)e70045 より)